

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

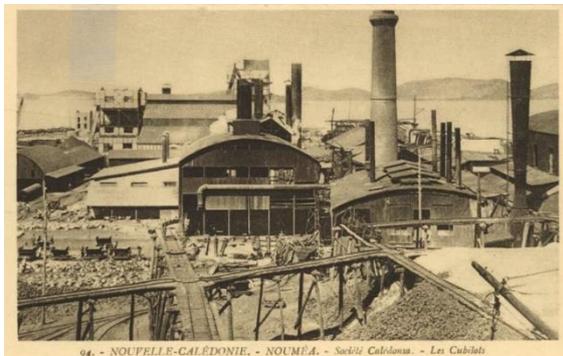
150 在ヌメア領事事務所（2023年3月2日）

フランスにおける日本政府の在外公館は、フランス本土には、パリにある大使館（※1）、在ストラスブール総領事館、在マルセイユ総領事館とリヨン領事事務所があります。これらに加えて、2023年1月には、パリから16,000キロ離れたニューカレドニアのヌメアに、新たに領事事務所が開設されました。



太平洋に浮かぶニューカレドニアは、美しい海と景色を求める日本人にとって人気の高い観光地として知られています。その証拠に、新型コロナウイルス感染拡大前の2019年は、ニューカレドニアを訪れた観光客の合計約13万人のうち、約22,000人が日本人でした。これは、フランス本土（約42,000人）、オーストラリア（約26,000人）に次いで、第三位を占める数です（※2）。日本とニューカレドニアの時差が2時間しかないことも、日本人観光客にとっては魅力の一つです。

観光だけではなく、日本とニューカレドニアは、歴史的にも深いつながりがあります。1892年、島内のティオにあるニッケル鉱山で働くために、日本から最初の移民となる599人がニューカレドニアに到着しました。しかし、過酷な労働環境と生活苦のため、多くの移民は5年の任期を満了する前に、



逃亡や早期の帰国をしました。そこで、フランス政府との間で仲介をしていた日本の移民会社が、フランス政府から、日本人移民はヨーロッパ人と同様の立場とする同意を取り付け、その後7回にわたって移民が派遣されました。ニューカレドニアに渡った日本の移民は、合計5,581人を数えました。

また、1941年には日本軍によるハワイ真珠湾攻撃によって在留邦人約1,100名がニューカレドニアから追放され、オーストラリアの捕虜収容所に拘留された後、日本に強制送還されるという悲劇もありま

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

した。2022年11月には、ティオにある日本人墓地で、日本人移民130周年慰霊式典が行われました。

ニューカレドニアには、3つの日本の都市と姉妹都市提携をしている自治体があります。ラ・フォア市は山形県鶴岡市と、イル・デ・パン (île des Pins) は宮城県松島町と、リフー (Lifou) 島は宮城県利府町と姉妹都市提携を結んでいます。イル・デ・パンを直訳すると松島になり、リフーと利府の発音が似ていることが縁になっています。

ニューカレドニアには、毎年約2万人もの日本人観光客が訪れ、歴史的な経緯から現在も約1万人の日系の方が生活されています。日本にとって重要なニューカレドニアに事務所を設置することは、日本政府にとって長年の願いでした。これまでは、歴代の名誉領事、ニューカレドニア日本親善協会、ニューカレドニア日本人会など多くの方々が、日本とニューカレドニアの交流発展に尽力してくださいました。在ヌメア領事事務所の開設とともに、日本とニューカレドニアの関係がさらに深化することを願います。

※1 52 [在フランス日本国大使館](#)

※2 ISEE (Institut de la Statistique des Etudes économiques Nouvelle-Calédonie) 統計。2019年にヌメア国際空港から入島した観光客数は、仏本土から42,207人、オーストラリアから25,732人、日本から21,670人を含めて合計130,459人。

